

體質ノ形態學的觀察表示法ニ就テ

金澤醫科大學解剖學教室

岡本規矩男

Kikuo Okamoto

金澤醫科大學大里内科教室

鈴木茂一

Moichi Susuki

(昭和16年7月15日受附)

内容抄録

著者等ハ日本人體質ノ形態學的觀察ヲ試ミントスルニ當ツテ先ヅ其ノ定義ヲ明カニシ、次ニ其ノ分類標準ヲ身體計測ニ依リスルコトノ視診的觀察ニヨルモノヨリ確實性アルヲ主張シ、人種解剖學的計測十四項ヲ撰ビコレヨリ得ル示數ヲ以テ、頭部、軀幹部、身體軟部

ノ肥滿狀態等ヲ知ル上ニ夫々三個ノ示數ヲ用キテ頭部示數三角、體格示數三角、周長示數三角ノ三種ヲ以テ表示シ、コレニヨリ體質ノ形態的表示ノ基本トナサンコトヲ提唱シタ。

體質ノ定義ニ就テハ學者ニヨツテ其ノ所論今日猶區々ノ様デアアルガ、要スル所ハ身體ニ附隨スル性状ノ形態的ト機能的トヲ問ハズ、ソレ等ノ總稱デアルトイツテヨイ。唯其ノ性状ノ中 Tander, Bauer ノ言フ遺傳範型的 (genotypisch) ナ性質ノミヲ體質トイフカ、或ハコレニ後天獲得ノ性質 Konditionell ヲモ含メタ外形範型的 (phänotypisch) ナモノマデヲ體質ト考ヘルカ (Martius, Kraus, Brugsch, Lubarsch, Krehl, Kaup, Hart) ノ二様ノ考ヘ方ガアル。稲田博士ハ假ニ前者ヲ狹義ニ於ケル體質トシテ後者ヲ廣義ノ體質ト名付ケルトイツテキル。Rauber-Kopsch 解剖書ノ新版 (1940年) 中ニ Kopsch ハ體質ヲ廣義ニ解シ Körperverfassung (Bauer) ヲ體質トシテキル。即チ體質學ヲ Lehre von der Körperverfassung (Konstitutionslehre) ト言ヒ表シ、外形範型ノ性状ヲ論ズルモノトシ、其ノ觀察並ニ記載方法トシテ

1, 形態的(解剖學的)體質學

2, 機能的(生理學的)體質學

ノ二種ニ別ケテキル。著者等ハ體質ヲ定義的ニハ稲田博士ノ「廣義ノ體質」ト解シ Kopsch ノ言フ Körperverfassung ヲ體質ト見做ス方ニ賛成スルモノデアアル。何故カトイフニ體質ノ基礎的研究ヲヤル上ニ、其ノ身體的性状ガ遺傳範型デアツテモ後天獲得性デアツテモ何レニシテモソレハ理論上ノコトデ事實ハ今日猶如何ナル性状ガ遺傳性ナリヤ否ヤ未決定ノモノデアアルカラデアアル。

次ノ問題ハ體質ヲ Körperverfassung トスルナラバソレヲ研究スル上ニ最モ必要ナノハ體質ノ觀察ニヨル分類問題デアアル。分類ニ就テハ機能ヲ以テ分類標準トスルモノ (Kraus, Tandler, Eppinger und Hess ノ如ク) ト形態上カラ分類シタモノ (Beneke, Sigaud, Chaillou, Mac Auliffe, Kreschmer, De Giovanni, Viola ノ如ク) トガアル。即チ生理學的ト解剖學的トノ二様デアアル (尤モコレハ正常ノ場合デ異常ノ場合ヲイフノ

デハナイ). 其ノ中解剖學的, 形態學的=觀察セラレタモノデハ Viola ノ身體計測=ヨル根據カラ分類シタモノノ他ハ何レモ單ナル視診的ナ觀察=ヨツテ分類シタモノデ言ハバ 體型デアル. 此ノ方法デハ分類型ガ觀察者ガ變ル毎=觀察ノ差異ガ免レナイノデ被檢群ヲ他ノ著者ノソレト比較スル場合=確實性ヲ缺ク懼ガアル. 故=數多ノ被檢群ヲ比較スル上=ハ計測=ヨルモノヲ根據トシテ分類スル方ガ解剖學的=望マシイワケデアル.

所ガ今日マデ身體的ナ性狀ヲ計測=ヨツテ觀察シソレカラ體格或ハ營養ノ特長ヲ判定シ標準トシタモノハ數多アリ大部分ハ示數トシテ擧ゲラレテキル. 今此等ノ示數ヲ用キテ體質ノ形態學的研究ヲ行フ場合=既往ノ計測又ハ示數ヲ全部用キテハ徒ラ=煩雜ニナリ中ニハ大同小異ノモノモアリ其ノ價値=於テハ多クハ期待シ得ナイ様=考ヘラレルノデアル. ソコデ著者等ハ形態學の體質ノ先決問題トシテ解剖學的=立脚シ, 可及的=容易=計測シ得ラレ簡單=形態學的體質ノ特長ヲ把ムベキ目的=次ノ十四計測事項ヲ選ダノデアル. コレニヨツテ得タ示數ヲ用キテ身體ノ主要部即チ頭部ノ形狀, 軀幹ノ形態, 身體軟部殊=肥滿狀態特長ヲ把握セントシタノデアル.

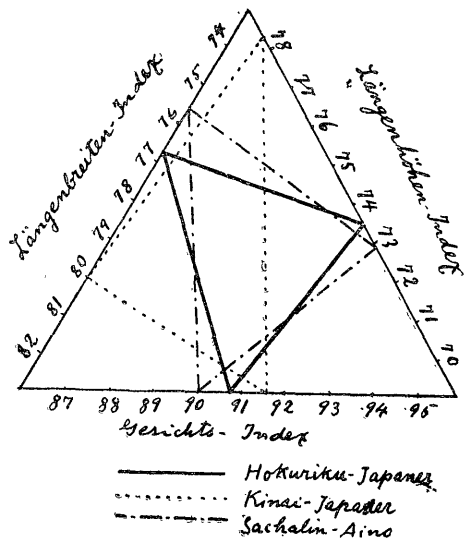
1. 身長 (マルチン氏身體計測1)
身長計測デハ日差ヲ考慮シ午前中=施行スル.
2. 體重 (マルチン氏身體計測71)
3. 胸圍 (マルチン氏周長計測61)
Guttmann, Kohlrausch ノ記載セル如ク前側デハ乳頭直上, 後側ハ肩胛骨尾側角直下デ計測スル.
4. 坐高 (マルチン氏身體計測23)
5. 腹圍 (臍位)(マルチン氏周長計測62(1))
6. 上膊長 (右側)(マルチン氏長徑計測47)
7. 上膊圍 (右側)(マルチン氏周長計測65)
8. 大腿長 (右側)(マルチン氏長徑計測55)
9. 大腿圍 (右側)(マルチン氏周長計測68)
10. 頭最大長 (マルチン氏長徑計測1)

11. 頭最大幅 (マルチン氏幅徑計測1)
12. 頭耳高 (マルチン氏高徑計測1)
13. 顴弓幅 (マルチン氏幅徑計測6)
14. 顔面高 (形態顔面高, マルチン氏高徑計測18)

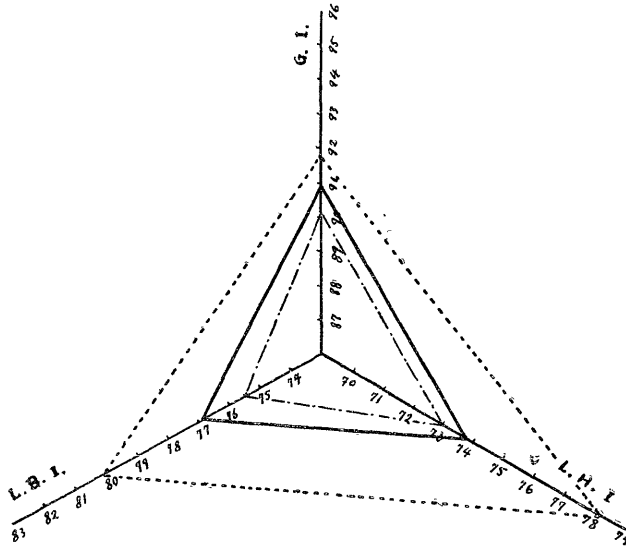
即チ以上ノ計測値ヨリ次ノ示數ヲ求メテ各部ノ性狀ヲ形態學的=見出スルコトトシタ.

頭部=就テノ特長ヲ知ルタメ=腦頭蓋ノ形態ヲ頭長幅示數=ヨツテ其ノ水平面投影ノ形狀ヲ知り, 頭長高示數=ヨリ 側面投影ノ形ヲ窺知シ, 此ノ二ツデ大體頭部形狀ノ特長ヲ知ルコトトシタ. 顔面部=就テハ形態の顔面示數デ特長ノ判斷ヲシタ. 以上ノ三示數ヲ用キテ先ヅ示數三角ヲ作圖シ比較スルノデアル, 即チ示數三角ハ六個ノ計測ヲ包含スルコトトナル. 示數三角ハ從來用キラレテキルモノハ第1圖ノ形式デアアルガ, 此ノ方法デハ數例ヲ比較スル場合三角形ヲ重ネテ觀察スルコトニナリ極メテ煩雜トナリ又其ノ場合各示數ノ移動ヲ比較對照スル時=極メテ見惡ク、不便デアルノデ岡本ハ第二圖ノ様=改良シタ.

第 1 圖



第 2 圖 Indexdreieck (Okamoto) des Schädels

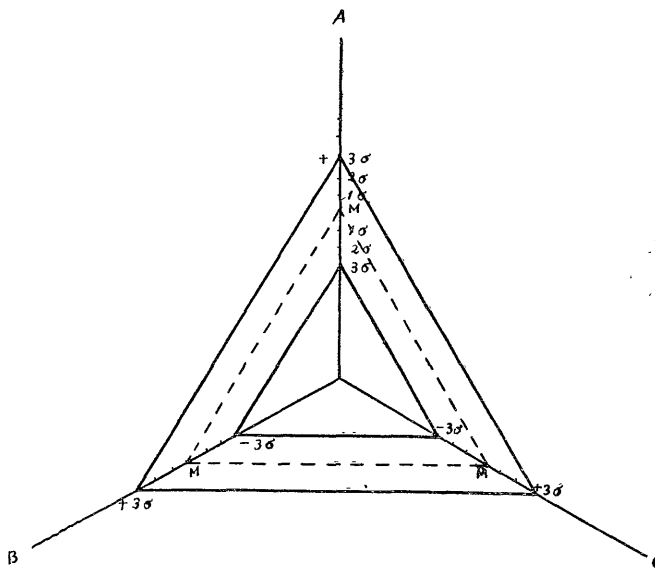


	Längenbreitenindex	Längerhöhenindex	Gesichtsindex
Hokuriku-Japaner	76.9	73.6	90.8
Kinai-Japaner	80.1	78.3	91.7
Sachalin-Aino	75.6	73.0	90.1

即チ三示數ヲ ABC 三軸上ニトツタノデア
 ル。コレニヨルト第1圖ノ場合ト異リ、數例ヲ
 重ネテモ煩雜デナク又其ノ各例ニ於ケル示數ノ

位置ガ比較對照ニ極メテ容易ニ見ラレ便利デア
 ル。今頭蓋計測シタ實例デ北陸、畿内、樺太
 「アイヌ」三者ニ就テ比較シ岡本ノ示數三角ヲ圖

第 3 圖 示數三角枠



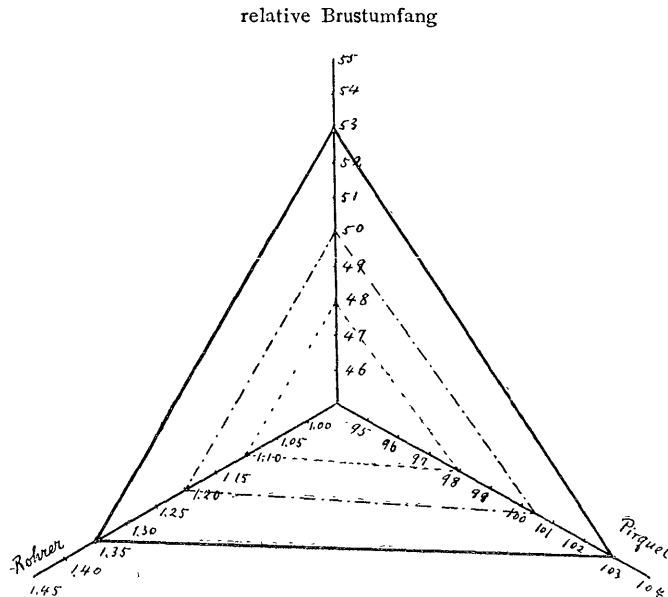
示シテ見タノガ第2圖デアル。コレヲ同一ノ材料デ從來ノ圖示第1圖ト比較スルト第2圖ノ方が遙カニ便利デアル。

次ニ三示數ノ $M \pm 3\sigma$ ヲ三角圖示ニ當嵌メテミルト第3圖ノ様ニ三角形ノ枠ガ形成サレル。此ノ枠ハ大體被檢値ノ正常範圍ヲ示スコトニナル。若シ被檢者ノ三示數ヲ知り此ノ中ニ記入シ出來タ三角形ガ枠中ニ嵌レバ正常ト見做シ得ルコトトナル。若シ枠ノ内外ニ出レバ Extremen ト考ヘネバナラス。故ニカ、ル三角枠ハ被檢示數ノ正常ナリヤ異常ナリヤノ判定ニモ使用シ得ルコトトナル、假ニ正常示數三角枠ト稱スルコ

トトスル。

軀幹ニ就テハ比胸圍、ローレル氏充實示數、ピルケー氏榮養示數ヲ出シコレニヨリ示數三角ヲ作ルノデアル。比胸圍ニヨツテ骨格ヲ主トシタ Körperbau ガ窺ハレ、ローレル氏示數ニヨツテ身體ノ充實度ヲ知り、ピルケー氏ノ榮養示數デ軀幹ノ榮養度ヲ知ルコトガ出來ル。此ノ三示數ニヨル三角ヲ岡本ハ體格示數三角 Körperbauindexdreieck ト假稱スル。鈴木ガ計測シタ材料デ體格示數三角ヲ作ルト第4圖ガ得ヲレル、而カモ年齢別ニヨル變化モ明カニ出來ル。

第4圖 Körperbauindexdreieck (Okamoto)



	比胸圍	ローレル示數	ピルケー示數
13歳	48.0	1.10	98.0
18歳	50.0	1.20	100.5
成人	53.0	1.35	103.0

(鈴木茂一計測ニ俣村民ニ依ル)

次ニ軟部ノ状態デアルガ、比較圍長ニヨツテ觀察スルノデアル。比腹圍(臍位デ測定)、比上膊圍、比大腿圍ノ三示數ヲ求メコレデ周長示數三角 Umfangsindexdreieck ヲ作製スル。

著者等ハ以上ノ頭示數三角、體格示數三角、

周長示數三角ノ三種ニヨツテ體質ノ形態の特長ノ外廓ヲ把ミ得ルト思考スルノデアル。今日正常體質ノ形態的判定ニ多數多様ノ計測並ニ示數ガ案出セラレテキルガ、何レモ一長一短何レカ一ツノミヲ以テハ體質ノ形態ヲ表ハシ得ズ、又

既往ノ計測並ニ示數全部ニ就テ多數ノ材料ニ觀察スルコトハ容易ナ業デハナク又比較對照スルニ煩雜トナリ要領ヲ得難イ様デアル。著者等ハ

此ノ點ヲ考慮シ著者等ノ教室ガ體質ノ形態的觀察ヲナス上ニ豫メ著者等ノ表示法ノ要點ヲ記述シテ大方ノ批判ヲ乞フ次第デアル。

文 獻

- 1) **Bauer, Julius.**, Vorlesungen über Allgemeine Konstitutions- und Vererbungslehre. 1924.
 2) **Bauer, Julius.**, Genotyp und Phänotyp. Wien. Kl. W. Nr. 27. Sonderbeilage. 1927. 3) **Borchardt, L.**, Klinische Konstitutionslehre. 1924. 4) **Brugsch, Th.**, Die Biologie der Person. 1926. 5) **Günther, H.**, Die Grundlagen der Biologischen Konstitutionslehre. 1922.
 6) **稻田龍吉**, 疾病治療と體質。診断と治療, 臨時増刊, 昭和3年。 7) **Kaup, J.**, Neue Grundregeln der Norm und Konstitutionsforschung. Klin. Wochenscf. Nr. 28/29, 1924. 8) **Kraus, Fr.**, Allgemeine und spezielle Pathologie der Person. Leipzig, 1926. 9) **Kretschmer, E.**, Körperbau und Charakter, 1922. 10) **Naegeli, O.**, Allgemeine Konstitutionslehre, 1927. 11) **中川一郎**, 成長と榮養。昭和15年。
 12) **大串菊太郎**, 體格榮養判定準表。大正11年。
 13) **岡本規矩男**, 北陸日本人ノ骨系統ニ於ケル人類學的特長。解剖學雜誌, Bd. 16. Nr. 6. 昭和16年。 14) **大山稻三郎**, 生命保險醫學上に於ける體質の分類に就て。稻田, 疾病治療と體質, 昭和3年。 15) **Siemens, H. W.**, Einführung in die Allgemeine Konstitutions- und Vererbungs-pathologie, 1921. 16) **高木逸雄**, 體質論。稻田, 疾病治療と體質, 昭和3年。 17) **丹治善造**, 生命保險醫學と體質。稻田, 疾病治療と體質, 昭和3年。 18) **吉田章信**, 體質の意義に就て。稻田, 疾病治療と體質, 昭和3年。 19) **渡邊喜三**, 體質を論じ遺傳素質に及ぶ。稻田, 疾病治療と體質, 昭和3年。